

9月1日は「防災の日」

日ごろの備えで身を守ろう

今から79年前の大正12年9月1日は、関東大震災が起きた日です。この日を「防災の日」と定め、災害に対する認識を新たにすると位置付けています。この機会にもう一度、あなたの防災対策をチェックして見ませんか。



阪神・淡路大震災で倒壊したビル

恐ろしい地震災害

わたしたちの日常生活は、常に地震災害、風水害といった危険にさらされています。

中でも、特に注意が必要なのは被害の規模からいって地震災害です。地震の恐ろしさには、建築物の倒壊と倒壊による火災の発生があります。また、台風などといいつつ、どこで、どのくらい規模で発生するのか予測がつかないことも地震の怖いところです。

まさかのときのための心構えを再確認してみましょう。

あなたならどうしますか

いざ地震となると、普段冷静な人でも慌ててしまつかもかもしれません。こんなとき、あなたならどうしますか。

台所にいたら

揺れを感じたら、使っている火を消す。
大きな揺れときは、ますデー

ブルなどの下に身を隠し、おさまったら消火する。
食器や刃物などがあるので、なるべく早く台所から離れる。



寝室にいたら

布団をかぶって頭を保護する。
ベッドの下へもぐり込む。

ふる・トイレにいたら

湯船の中では、ふるのふたなどをかぶって揺れのおさまるのを待つ。
ドア枠がゆがまないうちにドアを開ける。

オフィスにいたら

ロッカー、資料棚、事務機などから離れて机の下に身を隠す。
窓際から離れる。

地下街にいたら

地下は地上の建物より比較的安全なので、非常口に殺到せず、落ち着いて避難する。
停電になっても、非常照明がつくまでむやみに動かない。

火災が発生したら、ハンカチやタオルで鼻と口を覆い、這うように避難する。

デパート・スーパーにいたら

柱や壁際に身を寄せ、衣類や荷物、買物かごなどで頭を守る。
階段や出入口に殺到すると、パニックを起こすので、店員の指示に従って行動する。
店内は落下・転倒物が多いので下敷きにならないよう移動する。



街を歩いていたら

ブロック塀、石壁、門柱、電柱から離れる。
建物には近づかず、広場などに避難する。
切れて垂れ下がった電線には絶対に触れない。



車を運転していたら

急ブレーキは踏まず、徐々に速度を落とす。

道路の左側に停車し、エンジンを止める。

車を離れるときは、キーを付けたままにする。

建物から出るときは

自宅に限らず、建物から慌てて戸外に飛び出すのは危険です。かわらやガラス、看板などの落下物に注意してください。

日ごろの備えは万全ですか



日ごろの訓練が役立ちます

災害が大きくなると消防署による救急活動が間に合わなくなることもあるので、軽いけがなどのときはお互い協力し合って応急手当をしてください。

また、デマに惑わされたりせず、正確な情報で行動してください。

家族の防災会議

家の中の安全な場所、避難場所や避難経路の確認、家族が離ればなれになったときの連絡方法などを決めておきましょう。

防災訓練への参加

積極的に参加し防災行動力を身に付けましょう。

家・ブロック塀・石塀の補強
土台や基礎を点検しておきましょう。

家具類の転倒防止

家具類や大型電化製品などは転倒防止策を施してください。

非常持出品の備えを

1力所にまとめ、いつでも持ち出せる場所に保管しましょう。

非常持出品をチェック！ 最小限の必需品を用意

避難所にたどり着いても、救済物資が届くまでに約3日かかるといわれています。そこで、この3日間を切り抜けるために次の非常持出品を用意しましょう。食料品は消費期限の確認も忘れずに。

非常食品：乾パン、ビスケット

類などすぐ食べられるもの

貴重品：預金通帳と印鑑

携帯ラジオ・懐中電灯：予備の電池も

生活用品：衣類、マッチ、ろうそく、ウェットティッシュなど

救急用品：常用している薬のある人は忘れずに

防災について、くわしくは総務課防災対策室（☎20-1510）へ。

わたしの地震体験

東京の空が赤くなり紙の燃えかすがたくさん飛んできました



関東大震災と千葉東方沖地震を体験した大網はるさん(畑ヶ田)に当時の様子について伺いました。

わたしが関東大震災を体験したのは、小学校4年生のときでした。実家は八日市場市内の農家で、その日は学校から帰ってきて、母とふかしまんじゅうを作っていました。地震があったのはそのときで、とにかくすごい揺れで、立っていらなかったことを覚えています。それから母と5歳の妹とともに大急ぎで外に飛び出しました。今だと、かわらなどが落ちてくるので危険ですが、当時はどの家もかやぶき屋根でしたから母もそうしたのだと思います。近所の人もみんな外に出ていました。倒壊したり燃えたりした家はなかったと記憶しています。ただ、東京の方の空が赤くなり、しばらくすると紙の燃えかすがたくさん降ってきたのが忘れられません。それから、今思えば余震だったので、大きな揺

れが何回もあり、そのたびに家の外へ飛び出しました。

昭和62年の千葉東方沖地震のときはこの家(畑ヶ田)の中にいたのですが、本当にびっくりしました。ちょうどおふろの掃除をしていたときで、浴そうの中の水が大きく波打ちとても怖かったですね。急いで裏の竹山に逃げ込みました。ラジオや薬などの防災用品はそろえてはいたのですが、外へ逃げ出すのが精一杯で何かを持ち出すという余裕はありませんでした。わたしは、幸い体も丈夫で家族と一緒に暮らしていますが、一人暮らしの老人や、介護の必要な人のいる家庭はとても心配なのではないでしょうか。もう大地震はこりごりですが、こんな体験を基に、いざというとき何をしたらいいか家族と一緒に考えてみたいと思います。